



# スローグローイング鶏種

## ブロイラーの鶏種性能の変遷

今回は日本チャンキー協会がまとめた約5年間のブロイラーの生産成績を紹介し、鶏種性能の変遷と、アニマルウェルフェア(AW)対応で欧州を中心に普及しているスローグローイング鶏種を紹介する。

全農飼料畜産中央研究所 養鶏研究室

### 鶏種性能について

ブロイラーは育種改良のスピードが速く、生産成績の向上が目覚ましい。例えば、48年前の42日齢時点での生産成績を比較すると、体重は4~4.5倍に上昇、飼料要求率は50%程度改善している。

全農飼料畜産中央研究所では育種改良にともなう飼料栄養要求性を試験し、最適な栄養バランスとなる試験研究を行っている。

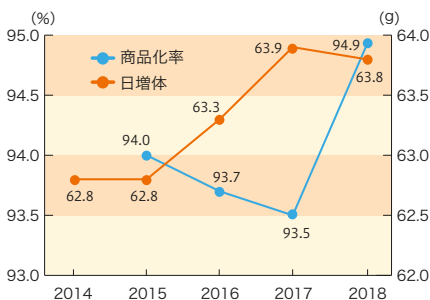
### 直近5年間の生産成績推移

その年に餌付けした鶏群で、主に国内で得られた出荷成績を基にデータの作成を行った。

#### (1)商品化率(出荷率-懸鳥時廃棄-食鳥検査廃棄)

2015年~17年にかけて若干数字が低下したが、18年では94.9%と15年対比+0.9%商品化率が向上している(前年対比+1.4%、図1)。農場単位では、前年対比で全体の77%の農場で商品化率の向上となった。

図1.生産成績推移



#### (2)日増体(DG)

14年~17年にかけて増体重の向上が見られた(0.4g/年)。18年は14年と比較して1.0gの日増体の向上であった(前年対比+0.1g、図1)。農場単位で表すと、前年対比で全体の48%の農場で向上している。若干の低下は、夏季の猛暑の影響が出ていると推察される。

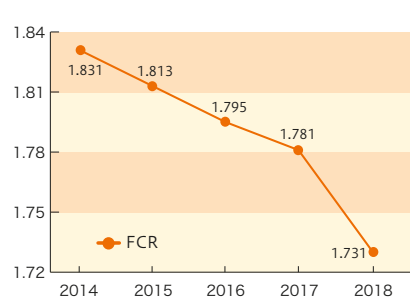
#### (3)飼料要求率(FCR)

14年~18年まで毎年飼料要求率の改善が安定的に見られた(-0.02/年)。18年は14年と比較して-0.10の飼料要求率の改善となった(前年対比-0.05、図2)。農場単位では、前年対比で全体の91%の農場で飼料要求率が改善された。

#### (4)PS(生産指数)シミュレーション

上記データを基に出荷体重3.0kg、出荷日齢50日で15年と18年を比較するとPSは17.8ポイントの向上となり、毎年4~5ポ

図2.飼料要求率



イントのPS向上となる。

育種改良だけでなく、飼料改良の努力もあり、近年の生産成績向上となっている。

全農中研では大きく変化する鶏の性能を引き出すため、飼料栄養水準の試験を継続的に進めている。一方で、季節(特に夏季)によって鶏の反応性が高く、夏場での換気対策などの飼養環境を十分に配慮する必要がある。

### スローグローイングについて

EUではブロイラーのAW対応として、有色で長期間飼育用の鶏種が広がりを見せている。通常のブロイラーでは短期間の飼養であるがEUでは愛護の観点上、長期飼育が販売上重要視され、成績指標では70日齢までの成績を記載している。0日齢の初期体重から小さく、70日齢飼養しても2,454g程度である。なお、今回紹介したスローグローイング鶏種は、チャンキーと同じ育種会社のエビアジェン社が海外で販売しているRangerBroiler種で、その成績指標を記載した(図3)。

図3.チャンキーとスローグローイングの成績指標

